

◎第10回理事会(37.3.23)出席者:滝山副会長,ほか理事8名。議事:1)第9回議事録の承認。2)昭和37年度予算案について審議し,次期常議委員会にかけること決定。3)昭和37年度事業計画を承認。4)役員選考世話人について。5)土木工学ハンドブック編集委員会経過について奥村理事が概略を説明,頒布方法など審議した。6)トンネル工学シンポジウムの期日,場所,内容につき説明承認。7)会費未納会員の処置について。8)土木賞の賞金賞牌について。9)事業資金の名称変更について・大正以降土木史編集委員会資金の名称を50周年記念事業出版準備金とする事について承認。10)委員会委員委嘱について・下記の通り各委員会委員委嘱および交代につき承認。

①吉田賞委員会

材料関係小委員会委員	関 慎吾氏(電 研)
〃	山田 順治氏(日本セメント)
構造関係小委員会委員	猪股 俊司氏(極東鋼鉄)

②合成形鉄道橋設計示方書委員会

副委員長 成瀬 勝武氏(日 大)

③水理公式集設計委員会

委員長	横田 周平氏(清水建設)
主 査	林 泰造氏(中 大)
〃	吉川 秀夫氏(土 研)
〃	岩垣 雄一氏(京大防災研)

④海岸工学委員会

布施委員を長尾義三氏(運輸省)に  
佐藤委員を岡部 保氏(〃)に  
森本委員を久田安夫氏(〃)に

11)その他

◎定例常議員会(37.3.30)有権者50名,うち出席35名(委任状ふくむ)の過半数で成立。議事:会長不在のため互選で奥田秋夫氏が議長になり,次の37年度事業計画案および予算案を審議の上可決した。

1. 昭和37年度事業計画

本部における昭和37年度事業計画は,科学技術の進展に対応して各種委員会の研究活動を旺盛にし,会員のための会誌,論文集の拡充改善および各般の図書刊行をはかるとともに,研究発表会,講習会などの行事を増強して,土木工学の発達を促し,また海外との連けいを一層緊密にして学術技術の交流を強化することを目的とする。これらの目的達成のため,会員増強運動を一段と強化して,学会経済の確立を期するものである。

(I) 主たる常置委員会の概要

(1) 会誌編集委員会 会誌 47 巻 4 号~48 巻 3 号発行,内容を豊富するために20ページ増大し月平均130ページとし,なお,一層会員との連けいを緊密にするよう努力する。

(2) 論文集編集委員会 論文集 80 号~91 号発行,隔月発行を月刊とする。平均48ページとし,20%程度の増ページの計画である。

(3) 文献調査委員会 会誌 47 巻 4 号~48 巻 3 号に文献抄録7ページ,文献6目録ページ程度を紹介するとともにパンチカードによる文献整理方式をさらに徹底し利用者の便をはかる。

(4) 出版企画委員会 機関誌を除く学会の出版物および学会監修の出版物を積極的に企画する。

(5) 海外連絡委員会 36年度に引続き Civil Engineering in Japan. 1962 を出版し,国際会議に関する連絡を行なう。なお,一層海外への PR 運動を推進する。

(6) 水理委員会 第7回水理講演会を10月に東京で開催し,

講演概要を出版する。さらに水理学研究の現況を発表する,また既刊の水理公式集の改訂案の審議を本年度中に終了する予定。その他,講演会を2回程度開催する。

(7) 耐震工学委員会 地震に関する国内外の各機関との連絡,震害の調査研究などを行なう。恒例の研究発表会を本年度は,建築,土質,地震の3学会と共催で11月に東京で開催する。北米濃地震調査報告書を出版する。

(8) 土木振興対策委員会 土木振興に関する基本的事項の調査,研究を行なう。

(9) 橋梁・構造工学委員会 国際橋梁・構造会議との連絡を行なう。第9回橋梁・構造研究発表会(New Idea in Bridges and Structures)を10月中旬大阪で日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会および日本建築学会と共催で行ない講演集を出版する。

(10) コンクリート委員会 コンクリートに関する研究を行なう。5月にコンクリート関係の新進技術者との交歓会,また5月に異形鉄筋に関するシンポジウムを開催し,その結果を出版する。次の小委員会を設け研究を進める。

a) コンクリート標準示方書改訂小委員会:無筋,鉄筋,舗装,ダムの4小委員会およびそれぞれに分科会を設置し示方書の改訂を審議する。

b) プレストレスト コンクリート小委員会:昨年改訂したプレストレスト コンクリート設計施工指針の次期改訂に備え,5分科会に分けてそれぞれ専門的に研究を進める。

c) フライアッシュ小委員会(委託研究):昨年度より着手したフライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のサビに関する長期研究を本格的に実施する。

d) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準に関する研究小委員会(委託研究):プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準制定につき引き続き審議を行なう。

(11) 土木製図規格委員会 昭和28年制定の土木製図基準(1)の改訂に着手する。

(12) 原子力土木技術委員会 原子力に関する土木技術的諸問題,特に施設の立地条件,廃棄物処理,その他に関する調査研究を行なう。

(13) 海岸工学委員会 第9回海岸工学講演会を10月に東京で開催し,講演集を出版する。また Coastal Engineering in Japan VOL. 5 を出版し,海外との交流をはかる。海岸保全施設設計便覧の改訂,および用語集の制定を行なう。国際会議関係の連絡を行なう。

(14) 災害対策研究委員会 風水害による災害対策の調査研究を行なう。

(15) 土木賞委員会 37年度土木賞受賞者の選考を行なう。

(16) 土木賞規約制定委員会 36年度の土木賞委員会運営の結果に鑑み土木賞授与規程を検討する。

(17) 大正以降土木史編集委員会 50周年記念事業の一環として原稿を整理する。

(18) 50周年記念事業委員会 50周年(昭和39年)記念事業の実施に着手する。

(19) 吉田賞委員会 37年度吉田賞および吉田研究奨励金被授与者の選考を行なう。

(20) トンネル工学委員会 6月にトンネル工学に関するシンポジウムを東京で開催し,講演集を出版する。また国鉄新丹那トンネルの見学を行なう。トンネル工学標準示方書の作成に

着手する。

(21) 土木工学ハンドブック編集委員会 29 年発行の土木工学ハンドブックを全面的に改訂し、37 年 5 月 15 日原稿締切、37 年 12 月末の出版を目標とする。監修は土木学会、発行所は技報堂とし、ページ数 2300 程度、定価 6000 円の予定。

(II) 委託研究として予定されるもの (各種委員会関係を含む)

- (1) 合成桁鉄道橋設計示方書に関する研究
- (2) P C 鉄道橋設計施工基準に関する研究
- (3) 本州四国連絡橋に関する技術上の調査研究
- (4) 八郎潟干拓水理に関する研究

(III) 各種行事 (各種委員会、関係学協会連合のものをふくむ)

- (1) 関東地区常議員半数改選 4 月
- (2) 定例常議員会
  - (36 年度事業報告、決算報告、理事半数改選) 5 月
  - (38 年度事業計画、予算その他) 38 年 3 月
- (3) コンクリート関係新進技術者との交歓会 5 月
- (4) 異形鉄筋に関するシンポジウム 5 月
- (5) 通常総会、第 17 回年次学術講演会、見学会 5 月
- (6) トンネル工学に関するシンポジウム、見学会(主催) 6 月
- (7) 講習会、見学会 (主催) 8 月、10 月
- (8) 第 12 回応用力学連合講演会 (共催) 9 月
- (9) 第 6 回材料試験連合講演会 (共催、京都) 10 月
- (10) レオロジー討論会 (共催、大阪) 10 月
- (11) 第 9 回橋梁・構造研究発表会 (共催、大阪) 10 月
- (12) 第 9 回海岸工学講演会 (主催) 10 月
- (13) 水理学講演会 (主催) 10 月
- (14) 地震工学シンポジウム (共催) 11 月
- (15) 風のシンポジウム (共催) 11 月
- (16) 第 4 回原子力研究総発表会 (共催) 38 年 2 月
- (17) その他 (随時行なうもの)
  - 講演会、シンポジウム、見学会、エキスカージョン、映画会

◎昭和 37 年度土木学会歳入歳出予算総括表

収入の部			支出の部		
大 科 目	本 年 度 予 算 額		大 科 目	本 年 度 予 算 額	
1 会 費	33 210 000	1 用 地 費	721 000		
2 論文集購読料	1 500 000	2 事 務 費	16 359 000		
3 刊 行 物	10 400 000	3 会 費 徴 集 費	1 120 000		
4 行 事 費	1 950 000	4 公 租 公 課 費	612 000		
5 広 告 料	12 840 000	5 会 議 費	830 000		
6 受託研究費	6 500 000	6 支 部 交 付 金	3 350 000		
7 著者負担金	150 000	7 事 業 費	33 213 000		
8 会誌論文集費	940 000	8 土 木 賞 関 係 費	470 000		
9 土木工学ハンドブック編集費	600 000	9 受 託 研 究 費	6 500 000		
10 雑 収	410 000	10 渉 外 費	400 000		
11 基 金 利 子	600 000	11 施 設 費	180 000		
		12 引 当 金	2 200 000		
		13 返 済 金	2 530 000		
		14 予 備 費	615 000		
合 計	69 100 000	合 計	69 100 000		

吉 田 賞 会 計

収入の部		支出の部	
大 科 目	本 年 度 予 算 額	大 科 目	本 年 度 予 算 額
1 基 金 利 子	1 600 000	1 吉 田 賞 費	1 600 000
合 計	1 600 000	合 計	1 600 000

◎各種委員会

(1) 第 9 回会誌編集委員会(37.2.23)出席者：堺副委員長、ほか委員 10 名。議事：1) 投稿原稿報告。2) 依頼原稿状況報告。3) 47 巻 4 号会誌の編集について(4 月より増ページ)。4) 4 月号よりの講座について。5) 学会誌を平易にするための基本方針など。6) その他。

(2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第 6 分科会(37.3.27)出席者：深谷主査、野口幹事、ほか委員 2 名。議事：鉄筋コンクリート標準示方書改訂のため第 6 合科会(柱およびフラット スラブ)委員が集まり改訂についての打合せを行なった。次回分科会を 3 月 20 日(第 4 回は 4 月 3 日の予定)。

(3) トンネル工学委員会幹事会(37.3.28)出席者：丸安幹事、ほか幹事 3 名。議事：1) 第 1 回トンネル工学委員会議事録の作成。2) 講演会の運営および会誌広告について。3) 示方書作成資料の収集について。4) 次回幹事会について。

(4) 本州四国連絡橋技術調査委員会 基礎に関する専門部会幹事会(37.3.1)出席者：建設省側幹事 7 名、国鉄側幹事 8 名。議事：3 月 12 日に開催される専門部会の準備下打合せを行った。①部会次第について。②専門部会内規について。③次回幹事会は 3 月 29 日とし、次回には文献リストを集める。

(5) 第 10 回文献調査委員会(37.3.2)出席者：久野委員長、ほか委員 9 名。議事：1) 47 巻 4 号登載文献抄録、目録の決定。2) カードの提出状況について。3) 委員交代について。

(6) 第 3 回出版企画委員会幹事会(37.3.6)出席者：荒井副委員長、丸安委員、八十島幹事長、ほか幹事 5 名。議事：1) 37 年度出版関係予算を審議。2) 新刊図書協議。3) その他。

(7) 第 5 回論文集各部委員会(37.3.7)出席者：第 1 部会・久保部会長、ほか委員 6 名。第 2 部会・林部会長、ほか委員 4 名。第 3 部会・山川部会長、ほか委員 5 名。第 4 部会・丸安部会長、ほか委員 4 名。議事：1) 各部会ごとに審査報告、受付原稿を報告。2) 別冊論文集復活案についての部会ごとの意見を聴耳。3) 委員交代について。4) その他。

(8) 第 10 回会誌編集小委員会(37.3.8)出席者：堺副委員長、ほか委員 4 名。議事：1) 47 巻 3 号の口絵およびニュースの確認。2) 47 巻 4 号登載原稿の決定。3) 工事管理講座に関する件。4) 学会誌を平易にするための問題。5) その他

(9) 第 3 回 P C 施工分科会(37.3.8)出席者：菅原主査、ほか委員 8 名、および関係者 7 名。議事：1) 硬練りコンクリートのウオーカーベリチー試験方法について。2) 接着剤に関するテーマについて。3) コンクリートの管理について。4) 事故調査の資料について。5) 温度測定について。

(10) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第 3 分科会(37.3.8)出席者：委員 3 名。議事：1) 鉄筋コンクリート標準示方書の改訂につき打合せを行なった。2) 今後同分科会委員として北田勇輔氏(日本大学)を追加する。

(11) 土木賞主査幹事会(37.3.9)出席者：米谷(学術)、岡本(技術)の両主査、ほか幹事 3 名。議事：1) 審査員の辞退にともなう変更について。2) 審査報告書の開封、整理。3) 予選に付すべき候補論文のせんこう方法について。4) 予選、決選の方法について。5) 土木賞委員会内規について。6) 3 年任期委員の選出について。7) その他

(12) 第 1 回本州四国連絡橋技術調査委員会 基礎に関する専門部会(37.3.12)出席者：委員 18 名、幹事 16 名。議事：1) 浅間幹事長司会。2) 沼田部会長欠席のため広田委員が議長となる。3) 委員および幹事の紹介。4) 内規につき検討。5) 建設省、国鉄よりの調査経過の説明。6) 部会の研究方針その他につき討議した。7) 次回は 4 月下旬から 5 月上旬に行なう予定。

(13) 第5回論文集部会長会(37.3.12)出席者:丸安,林正副委員長,久保,山川両部会長,ほか委員4名。議事:1)各代会よりそれぞれ審査原稿,新規受付原稿などの報告。2)論文集81号(5月発行),82号(6月発行)の登載原稿を確定。3)別冊論文集復活について協議したが,投稿状況を見てから処理することとし,当分見送ることとした。4)その他。

(14) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第5分科会(37.3.12)出席者:大地主査,ほか委員6名。議事:1)前回分科会の経過報告。2)条文担当者の決定。3)条文作成上の注意。4)次回は3月19日13時に開催する。

(15) 予算審議打合せ(37.3.13)出席者:佐藤,林,末森の各理事。議事:昭和37年度の予算につき検討を行なった。

(16) 第17回年次学術講演会プログラム編集打合せ(37.3.14)出席者:林理事,ほか論文集委員会幹事4名。議事:第17回年次学術講演会の申込状況を説明(下記の通り),プログラムの編成の打合せを行なった。

支 部	1 部	2 部	3 部	4 部	計
北 海 道	5	6	0	5	16
東 北	2	5	2	2	11
本 部	28	23	21	19	91
中 部	7	3	3	4	17
関 西	28	54	20	19	121
中 四	4	3	3	5	15
西 部	7	6	4	5	22
計	81	100	53	59	293

(17) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第7分科会(37.3.15)出席者:村田副主査,ほか委員4名。議事:1)フーチング部会担当条文具次案の説明。2)担当条文の審議。3)次回までに解説をできるところまで書いて来ることに決定。

(18) トンネル工学委員会幹事会(37.3.16)出席者:加納幹事長,ほか幹事4名。議事:1)シンポジウム開催について。2)議演者および講演題目は次回幹事会までに明確にする。3)原稿執筆依頼は講演者に至急出す。4)晩餐会は6月21日夜レストラン トーキョーで行なう。8)晩餐会は講演者と委員のみとし委員は500円ぐらいの会費,講演者は招待とする。9)テキストの広告については次回に審議する。10)示方書原稿が集ったので次回までに刷上げられるよう整理をした。11)その他。

(19) 海岸工学委員会(37.3.16)出席者:本間委員長,ほか委員12名。議事:1)海岸工学講演会開催について・本年の海岸工学講演会は海洋学会の沿岸海洋学のシンポジウム,学会の水理講演会などが同時に開催されるのを考慮して次記のごとく決定4月号会誌に掲載することにした,日時:10月16,17日 場所:東京(渡部委員に一任3月中に学会に連絡),講演申込:6月末日まで,原稿締切:7月末日まで,ページ数制限:1件6ページ,次いでレセプションの件,講演集出版の経費の点などにつき討議を行なった。2)国際海岸工学会議について・本年はメキシコで11月の第1週(5日~11日)に行なわれる。今までにわかっている論文提出者は次のとおり,(岸),(岩垣)(浜田),(本間,堀川),(本間,鮮干),(権貝)の各氏,参加者は今のところ岸氏が考えられる件を報告。次回国際会議の件につき討議した。3)英文海岸工学について(Coastal Engineering in Japan)・出版経費につき困難な点が多いがぜひ今後とも続けて行きたいと思うので現在の実情を説明し売さばき方を各委員に依頼した。海外寄贈については今まで学会,東大から送っているリストを各委員に送付し,それを参考に海外に宣伝してもらうよう依頼した。4)その他・①用語集および海岸保全施設設計便覧出版について,②委員の交代について,委員会委員を次

のごとく変更する。布施委員を長尾義三氏に,佐藤委員を岡部保氏に,福井委員を別の農林省関係の方に,森本委員を久田安夫氏に,この他に都関係から推薦してもらうよう港湾局計画部長(九里良介氏)に依頼する。福岡委員,石井委員は研究テーマがはなれたので今年度(36年度)一杯とする。

(20) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第4分科会(37.3.17)出席者:菅原主査,ほか委員5名。議事:120~130条の改訂第1原案の検討,この審議の結果を第2原案としてまとめ,関係者に送り,4月3日までに再度意見を集める。第3回分科会は4月5日14時に予定する。

(21) 第6回学生のための映画会(37.3.17)参加者:25名。上映映画,1)地下鉄1部,2部,(2)東海道線高架橋下交差工事,(3)イコス工法。講演:地下鉄工事について帝都高速交通営団調査役 清水 力氏。

(22) 異形鉄筋設計研究小委員会(37.3.19)出席者:国分委員長,ほか委員8名。議事:1)鉄筋コンクリートT形はり鉄道橋。2)鉄筋コンクリート倒立T形擁壁の設計。以上について審議報告書の形にまとめる。次回は4月28日17時からとし次のものを審議する。①道路橋鉄筋コンクリート ラーメン橋脚の設計,②道路橋鉄筋コンクリート 控壁式橋台の設計,③鉄筋コンクリート Tげた道路橋。

(23) 定款改正委員会(37.3.19)出席者:理事4名。議事:第1読会が終了整理ができたのでその改正案により1~23条を逐条審議した。

(24) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第5分科会(37.3.19)出席者:委員5名。議事:1)前回の経過報告。2)各条項試案の説明。3)追加条項(固定ばりの定義)について。

(25) 第2回土木賞委員会(37.3.20)出席者:星塾副委員長,米谷(学術),岡本(技術)の両主査,ほか委員7名,幹事4名。議事:1)経過報告。2)予選に付すべき候補論文の選考。2)予選,決選の方法について。4)土木賞委員会内規の改正について。5)3年任期の選出について。6)その他・①論文集の配布について,②賞金賞牌について。

(26) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会第6分科会(37.3.10)出席者:深谷主査,ほか委員4名。議事:鉄筋コンクリート標準示方書改訂のため柱およびフラット スラブ関係の委員が集まり討議を行なった。

(27) 第12回応用力学連合講演会第1回運営委員会(37.3.10)出席者:日本学術会議力学研究連絡委員会関係者13名,ほか係員7名。議事:1)開催日37.9.6(木),7(金),8(土)とする。2)場所 東京大学工学部2号館。3)懇談会 37.9.7(金)。4)講演募集要項の決定。5)その他。

(28) 本州四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会幹事会(37.3.22)出席者:建設省側幹事7名,国鉄側幹事7名。議事:次回専門部会に資料として提出すべき文献の準備,講演の問題等を打合せた。

(29) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準小委員会(37.3.22)出席者:国分委員長,ほか委員8名,幹事10名。議事:本年度国鉄に報告する第1原案を配布し,今後研究して行く方針,問題点などを審議した。

## 支 部 だ よ り

### ◎東北支部

昭和36年度技術研究発表会

日 時:昭和37年3月15日

場 所：仙台市（日立ファミリーセンター）

研究発表をする会員

参加人員：120名

発表会次第

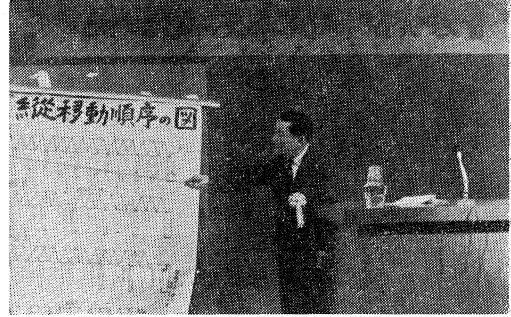
東北支部長あいさつ

- 1) し尿の消北に関する基礎的研究  
東北大学大学院 遠藤郁夫・江口 澄・佐藤 洋
- 2) 散水汚床に関する調査  
東北大学大学院 長谷川信夫
- 3) Hydro static curve について  
日大助教授 木村善代治
- 4) マックバーニー型サイフォン余水吐  
岩手県電力局 佐藤 源蔵
- 5) 鳴子ダムの温度分布について  
鳴子ダム所長 奥山 礼助
- 6) 分岐器外方における横圧力について  
仙鉄施設部 遠藤 芳春
- 7) 日本橋架設について  
東北地建 山名 英央
- 8) 電熱による舗装表面の水位防止について  
東北大学 浅田秋江・富田高久
- 9) 目地無し舗装について  
東北地建 菊地 新一
- 10) 東北本線（陸前中田長町間）名取川改良工事（主として  
下路トラス縦移動）について  
仙鉄施設部 熊谷 清春
- 11) 電気回路網模型による静振と津波の関係について  
東北大学大学院 斎藤 晃・福永淳浩
- 12) 衝撃荷重をうけた土の力学的性質について  
東北大学大学院 江刺靖行・高橋光彦

河上常議員閉会のあいさつ

発表終了後 映画上映

日本の道路 東北日産ディーゼル提供  
国土を拓くもの 日立製作所  
開発の使者



◎関西支部

(1) 土木の法面工法研究会 (37.3.6 大手前会館)

- ①法面の緑化工法について 京都大学農学部助教授 農博 新田伸三
- ②名神高速道路の法面工法について、  
日本道路公団名神高速道路試験所調査役 伊吹正紀

参加者 84名 参加費 無料

(2) 第3回商議委員会 (37.3.19 大阪建設会館) 出席者：商議員 15名，常議員 2名，幹事 9名。

(3) 第11回幹事会 (37.3.19 大阪建設会館) 出席者：米谷幹事長，ほか幹事 8名。

編	集
後	記

4月は新学期、新年度などといわれ、お正月と同じく新しい計画の一步を踏み出す月とされている。本誌も本月号から、平均130ページ建ということになり、今後いろいろ盛沢山の記事を予定しています。講座は新しく工事管理の問題を始める こととしていましたが、準備ならびに紙数の関係で次号より 4回にわたり 連載することとなりましたので御諒承下さい。

× × ×

学会誌を理解しやすく、親しみやすくすることは 毎月の編集

委員会で話しあわれていますが、本号から各地区 ごとに各種主要工事を地図上で紹介することともに、技術者としての十年後の夢をみるという新しい企画を始まりました。比較的可たい記事を読んだ後でながめて将来の夢をみるのも楽しいではありませんか。この地図を利用して、土木工事の見学を兼ねたハイキング等を企画してはいかがですか。

× × ×

なお、会誌は会員の皆様の会誌です。新しい企画なり御意見をどしどし編集部宛お寄せ下さい。【永田・記】

会員入退会について (昭和 37 年 3 月 1 日～31 日まで)

1. 入 会 62名 (正 48 学 5 特 1.C 5 特 1.D 3 特 2 1)
2. 復 活 5名 (正)
3. 退 会 55名 (正 37 学 16 特 1.D 2)
4. 死 亡 2名 (正)
5. 転 格 389名 学→正

会員現在数 (昭和 37 年 3 月 31 日現在)

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特1.A	特1.B	特1.C	特1.D	特2	計	(増)
38	13 770	960	30	14	14	27	1 45	224	19	15 241	(10)

正員	西川 総一君	大阪土質試験所長	昭和 37 年 3 月 2 日	死去	70 才
"	中村 弘之君	岐阜大学工学部	同 37 年 2 月 18 日	"	25 才

昭和 37 年 4 月 10 日印刷

昭和 37 年 4 月 15 日発行

土木学会誌 第 47 卷 第 4 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社 技報堂

東京都港区赤坂溜池 5 番地

発行者 末森猛雄

発行所 社団法人 土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200 円 (送料 15 円)

振替 東京 16828 番

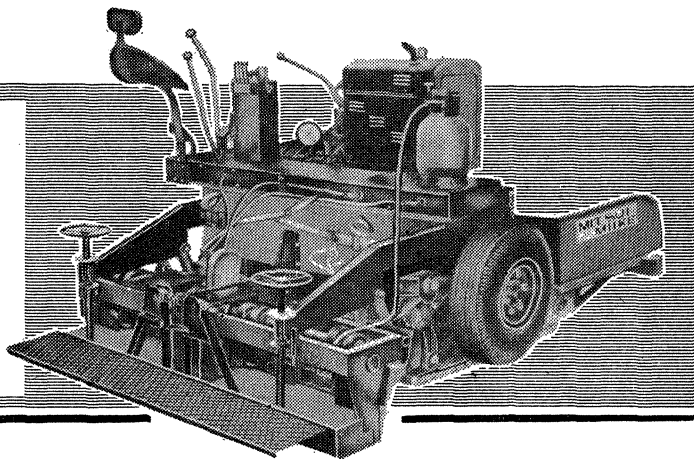
電話 (351) 5130・5138・5139 番


# MITSUBI MIKE 豊富な経験、斬新な技術

## 三井 アスファルトフィニッシャ

### 主要仕様

全長	4,191mm
全巾	2,500mm
全高	2,150mm
全備重量	5,800kg
走行法	キャタピラ、タイヤ
機関	29HP、1,800rpm
機装巾	1,800mm(6呎)~3,600mm(12呎)
舗装厚	10~100mm
舗装能力	50~60 t/h
自走速度	10.2~61.3 m/min
作業速度	2.5~15.2 m/min



 株式会社 三井三池製作所

本店 東京都中央区日本橋室町2の1 電話日本橋(専)2777(代)2331・2341  
 大阪事務所 大阪市北区中之島3の5 三井ビル内 電話土佐堀(441)(代)3731  
 工場 福岡県大牟田市旭町2の28 電話大牟田(代)8301・2572・5952  
 営業関係 東京・大阪・三池・福岡・広島・名古屋・札幌

# 防水は

## グラスロンパンプライ

(無アルカリ ガラスルーフィング)

銅線入網状ルーフィング  
メタリヤンメッシュ

ビニロン製特殊ルーフィング  
ビニロンタイトルーフィング

裏板不要の特殊ラス  
ヤハズラス

# 高山工業株式会社



# 断熱は

## グラスロンウールと

### セルコンで

(新しいガラス繊維板)

(セメント製軽量断熱材)

本社 東京都千代田区神田小川町1の8  
 TEL 神田 (251) 0161~3・1301~2  
 大阪営業所 大阪市北区老松町2の19(昭栄ビル)  
 TEL 大阪(341)代表5976~9  
 直通 9015